

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「豊かな心を育み、未来を切り拓こうとする生徒の育成」 ～力を合わせ ともに伸びる～ 浜玉中三訓「時間 掃除 あいさつ」 ～時を守り 場を清め 礼を尽くす～	①学力の定着と向上 ②心の教育の推進と道徳教育の充実 ③キャリア教育の推進 ④地域とともにある学校づくり

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学力の定着と向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・学び合いの活用による基礎・基本の定着と確かな学力の向上	・生徒同士で互いの考えを深めて高め合える授業を行い、昨年度より授業がわかると思う生徒を70%以上にする。	・各授業で、生徒一人一人が考える時間や発表・検討し合える時間を設定する。 ・4人組での少人数活動により発言しやすい環境を作り、生徒が安心して学べる場を作る。	B	・TTの授業や学び合いの学習などでわかりやすいと考えている生徒の割合はいずれも90%を超えた。 ・学び合いについては教師の実践に差が見られるとともに、クラスワークについて課題がある。	・言語活動や学習課題の設定、学習形態の工夫などの授業改善を継続する。 ・道徳、学級活動、生徒会活動等を通して、主体的に学ぶ態度を培う。 ・全教科共通の実践項目を設ける。
学校運営	○教職員の資質向上	・ICT利活用による授業力の向上	・授業におけるICTの利活用を通して、生徒の学習意欲を喚起し、ICTが役に立つという生徒・保護者の割合が70%以上になる。	・教職員全員がICT機器を有効に活用できるように、ICT利活用に関する研修を計画的に行う。	A	・具体的目標を達成できた。ICTをより活用しやすくなるための環境を整備したことや先生方の利活用の能力とその指導力の成果だと考えられる。課題は、ICT利活用の質の更なる向上である。	・ICTを利活用する研修の実施や、ICTの環境の整備を今後も更に進めていく。

②心の教育の推進と道徳教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・豊かな心を育てる道徳教育の推進	・生徒が自己肯定感を高め、豊かな人間関係を育み、自らの人生や未来を拓く力を育む。 ・小中連携で授業の工夫や改善の共通理解と実践を図る。	・全教育活動を通して育まれる豊かな心や道徳性を、道徳の時間に、補充・深化・統合する。 ・「いきいき学ぶからつっこ」育成事業において、道徳教育の部会をもち、計画的な小中連携を図る。	A	・各学年で推進委員を中心に授業の工夫やローテーション道徳等を実施し、生徒の興味を高め、考え、議論する道徳科の実践ができた。 ・道徳アンケートの「自分には良いところがあると思うか」の項目で、そう思う、どちらかと言えばそう思うの割合が6月と12月で1.4ポイント上昇した。	・ローテーション道徳やチームティーチングの実施を計画的に行い、対話の仕方や考えの深め方について全職員で協力して研修を深める。 ・道徳科を始め、教育活動の中で、自己肯定感を高める手立ての研究、実践をさらに進めていく。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止、早期発見・早期対応	・いじめの未然防止のために、生徒の状況を細かく把握する。 ・いじめの早期発見・早期対応を行い、生徒が安心して学校生活を過ごすことが出来るように努める。	・QUテスト(年2回)、生活アンケート(月1回)、教育相談週間(年2回)を実施し状況把握に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。	B	・QUを実施するとともに教育相談等を計画的に行うだけでなく必要に応じて行うことで、いじめの未然防止、早期発見につながった。 ・いじめが発覚後は担任だけでなく、生徒指導、学年担当職員が連携して早急に対応することができた。	・年2回行っているQUテストについて、来年度は2回の実施をより適切な時期に設定し、生徒の実態を把握し支援に十分に役立てられるよう工夫する。 ・生徒の小さな変化を見逃さないよう、今年度から開催している教育相談部会を中核に位置づけ、より教師間の連携が図れるような仕組みを構築する。
教育活動	○生徒指導	・浜玉中三訓の徹底	・自らあいさつができる生徒の割合を70%以上にする。	・生徒会活動で、生徒自ら啓発を行うことで、意識の高揚を図る。 ・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。	B	・生徒会の本部が主導し、全校生徒があいさつ運動ができるようにしたこと、あいさつをする意識の高まりが見られた。 ・あいさつの様子について、生徒へのフィードバックが上手できていなかった。	・あいさつをする意味について考える機会を設けることで、生徒が自らあいさつをする環境を整えていきたい。 ・あいさつに関する講演会を行い、積極的な生徒指導に繋げていきたい。

③キャリア教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・キャリア教育の推進と情報提供の充実	・夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70%以上にする。 ・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。	・将来の夢や今後の目標を明確にし、実現に向けて努力する決意をする立志式を行う。 ・ていねいな進路相談を行う。 ・適切な時期に適切な情報提供を行う。	A	・夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合は目標を超えることができた。 ・学年廊下等に掲示物の充実を図り進路選択の情報提供を継続的に行ったことで、私立高校を第1志望に選択した生徒が増加した。 ・2学期の進路相談の時間の確保が課題である。	・夢や目標をもち努力する生徒を育成するために、教科領域において横断的な取り組みを行う。 ・日理的に厳しいと思われるが、高校進路説明会の年間で複数回の実施、中2年代からの体験入学参加、進路セミナーの一環としての講演会の実施を取り組んでみたい。
教育活動	○特別支援教育	・個々の生徒に応じたきめ細かい対応	・全職員が障害を持つ生徒への理解を深め、適切な支援ができるように努める。	・特別支援学級の学級経営案を作成し、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、支援会議を7月・9月に行う。	B	・特別支援学級の生徒の支援計画・指導計画を早めに作成し共通理解が図れたものの、個に応じた十分な支援ができたとは言えない。 ・教育支援部会を毎週開催できたが、話題が普通学級の生徒にまで広がることは少なかった。	・外部機関等と積極的に連携を図り、特別支援教育に対する理解と指導の在り方について研修する場を設ける。 ・普通学級の生徒の支援計画・指導計画の作成を推進するとともに、教育支援部会をより充実した会とする。
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と自己管理能力の充実	・全校生徒の朝食喫食率を90%以上に上げる。また、給食の残食をなくす。	・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。	A	・朝食喫食率の達成ができた。また、朝食喫食ができていない生徒への個別指導や必要に応じて保護者への連絡も実施した。 ・生徒会保健部の活動として、広報活動を毎日行い、興味・関心を高めることができた。	・アンケートを継続して行い、それをもとに生徒会の活動として広報・啓蒙を行う。 ・給食準備の方法を見直し食べるための時間を確保することで、さらに残食をなくすよう努力する。

④地域とともにある学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中・地域連携	・小中連携と地域連携の充実と開かれた学校づくり	・授業参観の参加率を60%以上に上げる。 ・地域の人材を活かした、サークル活動や各種ボランティアを通して、小・中学校と地域の連携を通して、学校が地域の発展に役立っていると思う生徒・保護者が70%以上になる。	・保護者との連絡を密にし、各種通信や地域への広報誌(浜玉っ子)等を通して啓発を図り、子どもへの理解・生活の改善を進める。 ・3つの小学校及び地域の講師と連携を密にし、各部会の運営を効果的に図る。	B	・1学期の授業参観は実施ができず、2学期の授業参観では参加率はあまり良くなかった。 ・小中連携で行ったサークルクラブ活動では、地域の方々にも協力していただき、小・中・地域間の交流を促進することができた。	・授業参観については、小中で連携し、保護者が参観しやすい時期・時間の設定や、各種お知らせ等の工夫を行っている。 ・サークルクラブ活動は地域の特性を生かした良い伝統となってきたので、さらに発展させるために、地域の人材を掘出し、クラブ数を維持していきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるように工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。	B	・文書受付や出張同等、学校事務に係る業務改善を推進できたものの、まだ改善できる業務がある。 ・「業務改善検討委員会」を開催し、業務に関する改善策の提案を行った。	・新教育情報システムを活用することにより、業務効率化を推進する。 ・「業務改善検討委員会」から提案された具体的な改善策の推進を図る。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・学校評価アンケートの結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価していただけており、評価項目は概ね達成できている。
・いじめ問題への対応については、生徒・保護者と教員の間で認識のずれが大きく、教員がいじめの実態を十分に把握できていない可能性も考えられる。このことを踏まえ、今まで以上にいじめの未然防止・早期発見・早期対応をしっかりと推進する必要がある。
・「特別支援教育」および、「業務改善」については、それぞれ支援体制の強化を図ったり、働き方改革の推進を図ったりしたものの、教員の評価が低く十分成果が上がったとは言えない。来年度もこれらについては、継続して本校の課題として捉え、改めて実態把握を行い、改善策を講じる必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目